
／雨降って

P 琢磨

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

／雨降って

【Nコード】

N2458C

【作者名】

P琢磨

【あらすじ】

「……今日も雨ねえ」「まあ、梅雨だし」「これは、僕と彼女が送る梅雨の日のお話。」

／雨降って

「……今日も雨ねえ」

ふと、漫画の本から顔を上げると、彼女が憂鬱ゆううつ気に窓の外を見て嘆なげいている姿が映った。

「まあ、梅雨つゆだし」

「梅雨なら雨降ってもいいという道理は無いと思うのよ」

「じゃあ、いつなら降っていいんだよ？」

「いつでも降ってほしくないに決まってるじゃない」

「でも、いつか降らないと農家の人が苦しむぞ。水不足にもなるし」

「仕方ないわね。だったら畑とダムにだけ降らしてあげるわ」

「オマエ、雨降らす権利でも持つてんのか？」

彼女は嘆息たんそくして再び窓の外に視線をやり、はあ、と更に重いため息こぼを零した。

「そんな権利が在ったら、あたしは既に世界すての王者よ」

「雨降らせるだけでそこまで偉くなれるのはきつとオマエだけだと

思う」

「ふふん、雨って実は偉いのよ。じゃなくて。雨なんか降らな

ければいいのに」

「オマエ自分で言つてて矛盾してるの気づいてるか？」

「こんなジトジトした鬱病うつ発症もいいトコな自然現象、誰が好き好むつてのよ」

「や、雨が好きな人は少なからずいると思うぞ。農家の人とか、水不足に悩んでる人とか」

「知ったこつちゃないわ」

「取り敢えず色々な人に謝ってくれないか？」

ふう、と僕に視線を向けてくる彼女。やけに胡乱うろんとした眼差しまなざしに

は力が無かった。

「そこで思う訳よ。雨さえ降らなければ地面は泥沼化ドロヌマしない、って

「……喧嘩ケンカでもしたの？」

「アイツが悪いのよ」

「……彼も大変だな、と思うと同時に、それで僕の家ウチに逃げて来たのか、と悟る。

いい迷惑メイワクだな。

「……またどうでもいいコトなんだろう？」

「どうでも好くないわよ！ だって、目玉焼きにはソースでしょ？

アイツ、醤油しょうゆ以外あり得ないって言うのよ！！」

「ほらどうでも好かった」

「何ですって？」

「何でもいいけど、ソース派以外オマエ認めない気か？」

「当たり前じゃない？」

「当たり前じゃない」

「何だよ。目玉焼きにはソースを掛けるのが一番に……」

「因ちなみに僕はマヨネーズ派だから」

「うわ外道……」

「そこまで言う！？ だからさ、そんなコトで喧嘩するってのが僕にはよく分からないよ」

「だって大事でしょ。位置主張」

「意思だろ。立場主張してどうすんだよ。とにかく、そんなコトでウダウダ悩まない」

「アンタは悩み事無さそうでいいわね。生きてるのが楽そう」

「何気に傷つくから止めてくれないか？ 雨も降ってるんだから、

マジメに腐りそうだぞ」

「元からじゃない」

「怒るぞ？」

「あー……ほら、でもさ、あたしがこうやって飛び出してきたらさ、何だか戻るの面倒じゃない？」

「面倒じゃない。つか、オマエの場合、単に引っ込みつかなくなってるだけだろ」

「う……違うわよ。だってあたし間違っ
てないもん」

「色々突っ込みたいが……梅雨なんだから、こんな風に腐ってないで、スッキリサツパリ謝ってこいよ」

「嫌よ」

「そこをスッキリサツパリ否定するなよ」

「だって嫌じゃない。何か負けたような気がして」

「勝ち負けの問題じゃないだろ？ 彼だって待ってるかも知れないんだぞ？ オマエが帰ってくるの」

「そうね。あたしってアイツの中で一番だし」

「オマエナニサマ？」

「でもほら、あたしから謝ったら、アイツの中のあたしも変わる訳じゃない？ いつも強くてカツコいいあたし見てるアイツにとつたら、謝ってくるあたしなんて想像と違うじゃない」

「変わったとしても、それもオマエの一部なんだから仕方ないだろ。オマエの全部を見せずに好きだーって言うてる奴の方がよっぽど別れた方がいいと思うけどね」

「うう……アンタ、何気にムカつくわね」

「そこでムカつくとか言う！？」

ベッドに寝転がり、彼女はバブバフと足をぶらつかせて布団を叩きまくる。

「……ねえ、アンタ。もしあたしがアイツと別れたら」

「付き合う気は無い」

「何だよ。このあたしと付き合えるなんて光栄過ぎて身の程を知れ
って感じじゃない？」

「オマエほど身の程を弁^{わか}まえてない奴もいないと思うけどな」

「アンタ、女に興味ないの？」

「無いと言え
ば嘘になる程度」

「じゃあ在るんだ？ そんな漫画ばっか読んでないで、エロ本とか

も嗜^{たしな}んでるんだ?」

「……嗜むの使い方を間違えてる気がする」

「じゃあ今みたいなシチュエーションも、実は嬉しかったりする?」

「……取り敢えずオマエじゃなかったら」

むく。すたすた。ほぐッ。

「ふぐ……いたい、済まん、悪かったから無言でナックルは止めてくれ……」

「そうそう、素直で宜^{よろ}しい」

すたすた。ほふッ。

僕の枕^{まくら}に顔を埋^{くっす}めて、更に深^ないため息。……魔^まされそうだ、今晚^{こん}。

「……雨が降ったら地面が固まるって言っけど、あたしとアイツの間には、ずうっと雨が降りっ放しなのよ」

「……固まらないと言いたいのか?」

「だから雨なんか降らなければいいのに、って思う訳。降らなければ、いつだって地面は固いままじゃない」

腹^{はら}を摩^さりながら、枕に顔を埋める彼女を見て、一言。

「でも、止まない雨は無いよ」

「……ねえ、今日泊まってっっていい?」

「ダメ」

「何だよ。こんな可愛くてか弱い女の子の頼^{たの}みを無^む碍^げに断^つる気なの?」

「うん」

「うわ外道……」

「ソース派以外を認めないオマエに言われたくない。彼が待ってるんだろ? 早い内に帰ってやりなよ」

「え? 気まずいじゃない」

「僕^{ぼく}はいいのか?」

／雨降って

「うん」

「おいしい」

「はあ……アンタには分からないでしょうね、彼氏がいる気持ちなんて」

「うん、まあ。僕、女じゃないし。彼氏はいららないし」

「……彼女もいららないでしょ？」

「まあ、今の所、必要としてないね」

「だからほら、あたしがその辺をレクチャー……」

「してほしくない」

「何ですよ。あたしなのよ？ この見目麗しいあたしがご教授してやるうって言ってるのよ？ もっと狂喜乱舞しなさいよ」

「どれだけ自意識過剰なのオマエ!?!」

「あーもー……このウダウダ感、何とかしなさいよ……」

ふう、と僕のベッドに満遍無く憂鬱を撒き散らす彼女に、僕自身も嘆息し始めた、その時。

ゝ 何かの音楽が鳴り始めた。

「あ、アイツからだ」

と言つて、ケイタイを取り出す彼女。どうやらメールが届いたらしい。

「……」

しばらく無言のまま表示画面を見入る彼女に、僕は疲弊しきつて、漫画に眼を戻した。

「……で？」

「……帰るわ」

「そう。彼に宜しくね」

「あ、傘借りてっていい？ あたしの傘壊れててさあ。何か穴開いてるのよ、穴」

「二本在るからお好きな方をどうぞ」

「じゃあ二刀流にしとくわ」

「根刮ぎ!?!」

「あ」

扉を開けて外に出た彼女が、ポツリと声を零した。

「……何？」

漫画から視線を上げて、玄関の奥にいる彼女に向けると、彼女は空を見上げていた。

「雨、止んだねえ」

雲の隙間から、陽光が差ししていた。

しばらくそれを見入ってた彼女は、やがて自分の壊れた傘を握り締め、僕を振り返った。

「じゃ、邪魔したわ」

「うん、邪魔された」

「また来るわね」

「いつでもどうぞ」

「じゃ」

「うん、じゃ」

扉が閉まり、部屋には静かな時間が戻ってきた。

窓の外では、明るい陽射しが辺りを照らし始めていた。

ぬかるんでいた地面も、また乾いて固まる事だろう。

そう　止まない雨は、無いのだから。

／了

(後書き)

最後までお読み頂き誠にありがとうございます。――(。)(。)(。)
6月も今日で終わりというコトで、

梅雨 を題材にした短編を1つ、掲載させて頂きました。

書き慣れない短編というコトで、色々と至らない点があると思いますが、

また宜しくお願い致します。――(。)(。)(。)
感想等、お待ちしております!!

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくは PDF 小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2458c/>

/ 雨降って

2009年3月24日09時44分発行